

ソファの品質とは

—家庭での使われ方考える品質—

仁井 徳子

[指導教員：武庫川女子大学教授 横川 公子]

キーワード：ソファ、品質、アンケート

1. 研究の背景

「今の日本には、品質よりも安さを重視して家具を選ぶ傾向がある。もっと品質の良いものを選んで欲しい。」

私は、就職活動でいくつかのインテリア関連会社が日本の家具選びについて、このようなことを指摘していることを知り、家具の品質とは何なのかについて疑問を抱いた。そこで、家具の品質について知るために読んだインテリア雑誌^注から「ソファ」について気になる点を発見した。それによると、ソファを選ぶ際には、サイズ感やデザイン、使い方などを考えて選ぶ必要があると書かれていた。このことから、「ソファの品質とは“使い勝手”である。」と仮説を立てたが、実際自宅にあるソファにあまり座った記憶がない。何人かの友人に聞いてみても、ソファに座らずフローリングの上で過ごしていることが多いように感じた。あまり座らないソファを購入する際に、使い勝手を重視して選ぶことが可能なのかどうかという矛盾を感じ、ソファの品質とは何かについて研究することにした。

2. 研究の目的

ソファを提供する側は、「安さよりも品質の良いソファを選んで欲しい。」と言っているが、品質の良いソファとは何なのか。実際のソファの使われ方を調査し、必要とされるソファとは何かについて明らかにすることを目的とする。

3. アンケート調査

3-1 調査方法

一般家庭のソファの使用実態を調査するため、19 名に依頼の上、自宅にソファがある友人 11 名にアンケート用紙を配布し、1 週間にわたって、①ソファの購入時期②ソファの購入理由③ソファが置いてある部屋の間取り④アンケート時、使用している暖房機器の有無⑤ソファの写真（片付ける前、就寝前の写真）⑥ソファの写真の撮影時間⑦家にいた人⑧家にいた人のそれぞれの行動とその時間、の 8 問に答えてもらった。

3-2 結果および考察

(1) ソファの必要性 まず始めに、実家暮らしの 15 名、一人暮らしの 4 名にアンケートを依頼したところ、回答者は 8 名で、以下の結果となった。

・引っ越して使わなくなり、個室に置いてある（1 名）

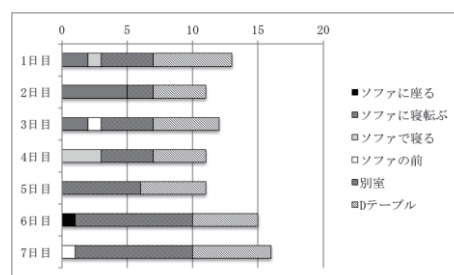
・ソファの皮革がボロボロになったため、押し入れにしまっている（1 名）

・家にソファがない（実家暮らし 3 名+1 人暮らし 3 名）

以上から、現在の日本の一般家庭では、実家暮らしであっても、自宅にソファを置いている人は少なく、置いてあっても使用していない家庭があることが分かった。つまり、現在の日本の暮らしには、ソファの必要性が低く、馴染みが薄いことが分かる。

(2) “ソファ”に対する意識 ソファの購入理由の中に、「ソファを置くと風格が出ると思ったから」「リビングにはソファがあるのが当たり前だから」などの回答があったことから、ソファを“使用するもの”ではなく、“置くもの=オブジェ”といった感覚で購入している人もいることが分かる。また、ソファは「床よりも清潔感があり、安全そうだから」という理由から、家に帰ってきたら鞆を置く場所、洗濯物を置く場所のような物置として、多く使用されていることが分かった。この 2 点から、現在家庭に置かれているソファに対し、ソファ本来の役割である“座るもの”として使用している人や考えている人ばかりではないことが理解できる。

(3) 現在の日本の生活様式とソファの関係性 回答者の家居の際の行動とその時間についてアンケートを行った結果が図 1 である。この質問の回答では、D テーブル（ダイニングテーブル）の椅子、こたつ、ソファの置いてあるリビング以外の部屋などで過ごす時間が長い人、ソファで過ごしていても、ソファをベッド代わりに使用している人やソファの前に座り、ソファを背もたれとして使用しているなど様々であった。このことから、家にいる時間の過ごし方は、人によって様々であることが分かる。また、どの家庭であっても、ソファの使用時間は少なく、“この間取りだからソファで過ごす時間が長い”や“このソファの形だからよくソファを使う”という決まりはなかった。



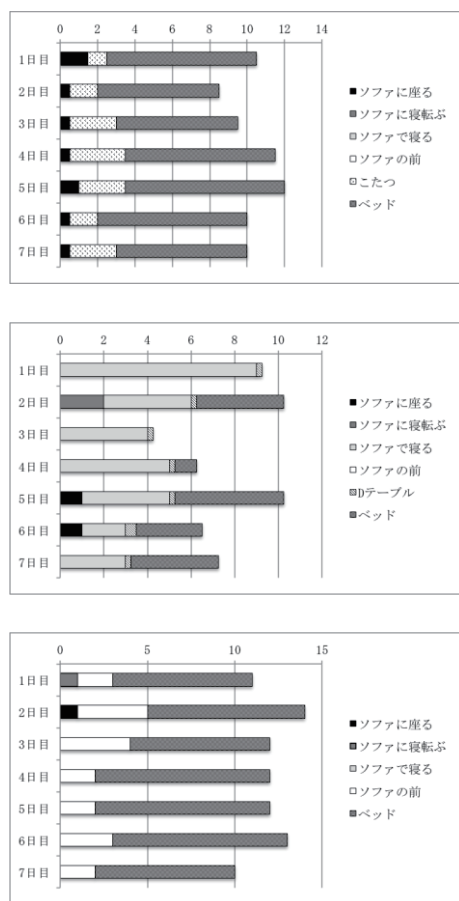


図1 1週間の家での行動場所とその時間

4. 市場調査

4-1 インタビュー調査

実際にソファを販売している担当者は、ソファの品質についてどのように考えているのか。3店舗のインテリアショップの担当者にインタビューすることができた。

3店舗それぞれに「ソファの品質とは何か」を尋ねたところ、「材質、中の素材、デザイン」や「スポンジのへたりにくさやフレーム（枠組み）のしなりによる変形のなさといった“耐久性”」という回答があった。中には「ソファの品質って言ったら“耐久性”でしょ。何について研究しているの？」とまで言われてしまうほど、「品質＝耐久性」ということに確信を持っている人までいた。つまり、販売者は多少の違いはあっても、ソファの品質とは「＝素材の良さ」であると考えていることが分かった。しかし、インテリアに関する教科書に「ソファの品質とは“耐久性”だ」という答えが載っているわけでもなく、一種の思い込みのような気がする。

4-2 現在のソファ事情

それぞれの店舗に「人気のソファはどれか」を尋ねると、「このソファが欲しい！」と言って来店する客はほとんどおらず、店員側が客の好みや家の状況などに合わせて勧めて行くので、特にこれが人気とかはないんです」と仰っていた。あえて挙げるのであれば、座面が外せて、カウチソファとし

てもソファ&オットマンとしても使える組み換えの出来るソファや、床座感覚で座っていただける座面の低いローソファが人気だという。

4-3 カタログにみるソファの種類と形

そこで、現在日本で販売されているソファの種類にはどのような傾向があるのか気になる、6店舗のインテリアショップのカタログからソファの形を分類した。6店舗すべてのソファを分類したグラフが図2である。

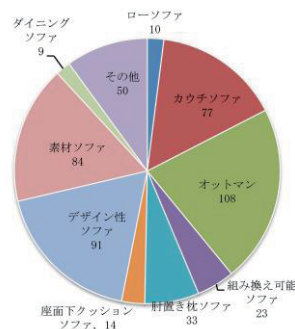


図2 ソファの形の分類

このグラフからは、アンケート調査で家での行動の回答にあった、床座感覚で座れる「ローソファ」、ソファをベッドとして使用しやすい「肘置きにクッション性があるソファ」、ソファの前に座り、ソファを背もたれにできる「座面下にクッション性があるソファ」の数が少ないことが分かる。このことから、現在の生活様式とは関係なく、デザイン性の高いソファを多く品揃えしており、販売側もソファを使うものではなく、オブジェとする感覚があるように考えられる。

また、それぞれの種類の数にばらつきがあることから、日本人の生活様式やソファに求める価値観が必ずしも一律ではなく、様々であると考えられる。

5. 結論

アンケート調査によって、現在の日本人はどの家庭であっても家で過ごす時間の中でソファの使用時間が占める割合が低いことが分かったが、落ち着く姿勢や生活様式は様々であった。また、ソファを購入する際に、重視するポイントも1つではなく、人によってソファに何を求めるかという価値観にも違いが見られた。このことから、生活様式や家具に対しての価値観が様々な現在の日本人にとって、「ソファの品質とは〇〇〇〇だ」と言い切れるものはなく、すべての人間にとって使いやすいソファは存在しないことが理解できる。しかし、現在の一般家庭でのソファの使われ方を調査した結果、あまり使われてないからこそ、「見ていても飽きがこない」や「引っ越しても邪魔にならない」などといった、長く使えてオブジェとして成り立つデザイン性のあるものが、必要とされているのではないと思う。

参考文献

- ・^注中村寿子著：オレンジページ「家具の教科書」